

## (9) 中国



中国地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_ は上方に変更、 \_ は下方に変更)。

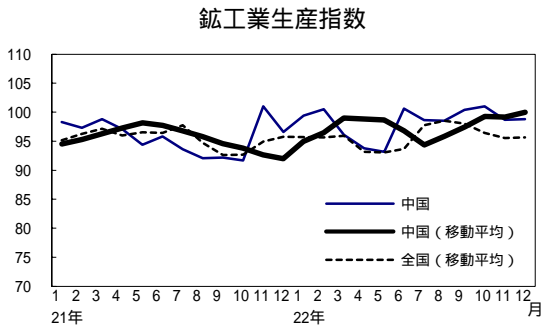
### 前回からの主要変更点

なし

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

10 - 12 月期の鉱工業生産は、化学が減少したものの、汎用・生産用・業務用機械が増加したこと等により、前期比0.3%増となった。



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。  
2. 全国及び中国の太線は中心3か月移動平均。  
直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
輸送機械	23.2	19.8	2.6	15.7	15.9	6.1
汎用・生産用・業務用機械	13.3	5.1	22.6	12.6	11.1	12.7
化学	12.2	3.5	7.9	14.4	6.8	27.3
電子部品・デバイス	8.8	0.3	2.1	6.3	9.6	1.6
食料品・たばこ	6.8	3.1	2.3	7.7	6.8	3.6
鉱工業	100.0	3.4	0.3	0.6	2.3	0.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 10 - 12 月期、12 月は速報値。

## 2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10 - 12月期は前期比0.2%増となった。月別にみると、10月は前月比1.9%増、11月は同1.5%減、12月は同1.0%増となった。

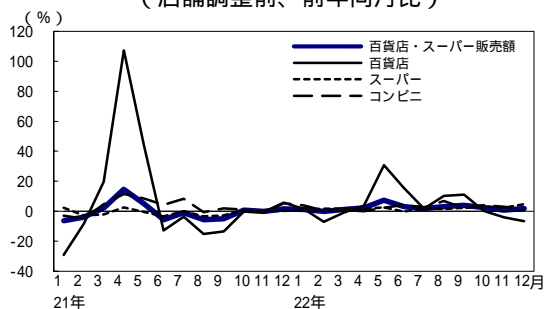
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10 - 12月期は前年同期比1.7%増となった。月別にみると、10月は前年同月比2.5%増、11月は同0.8%増、12月は同1.8%増となった。

百貨店は、10 - 12月期は前年同期比3.8%減となった。

スーパーは、10 - 12月期は同3.5%増となった。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



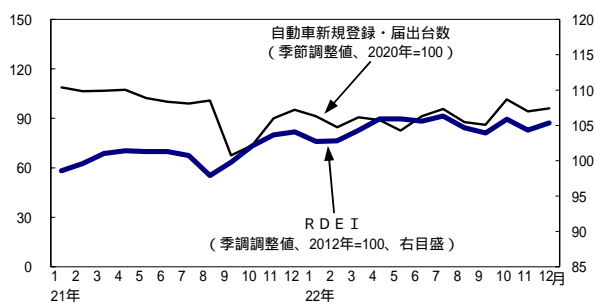
	2022年10-12月	2022年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.2	1.9	1.5	1.0
百貨店・スーパー(*2)	1.7	2.5	0.8	1.8
百貨店(*2)	3.8	0.2	4.0	6.5
スーパー(*2)	3.5	3.2	2.4	4.8
コンビニ(*2)	2.8	4.1	3.1	1.2
乗用車(*3)	12.0	36.9	4.1	1.1
(季節調整値)(*3)	8.4	18.1	7.2	1.9

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比(%))

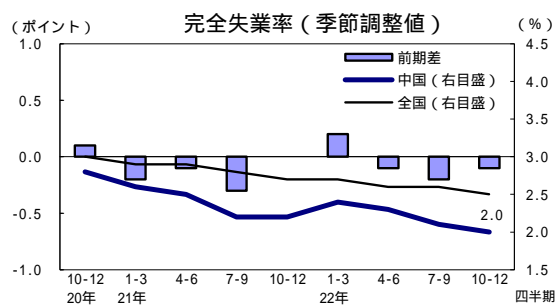
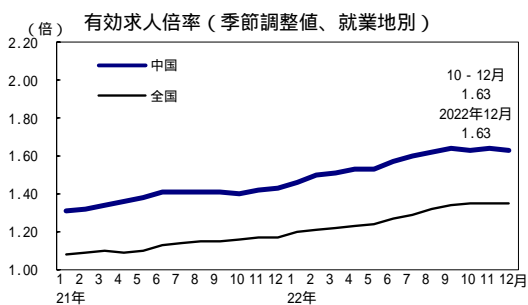
RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整。

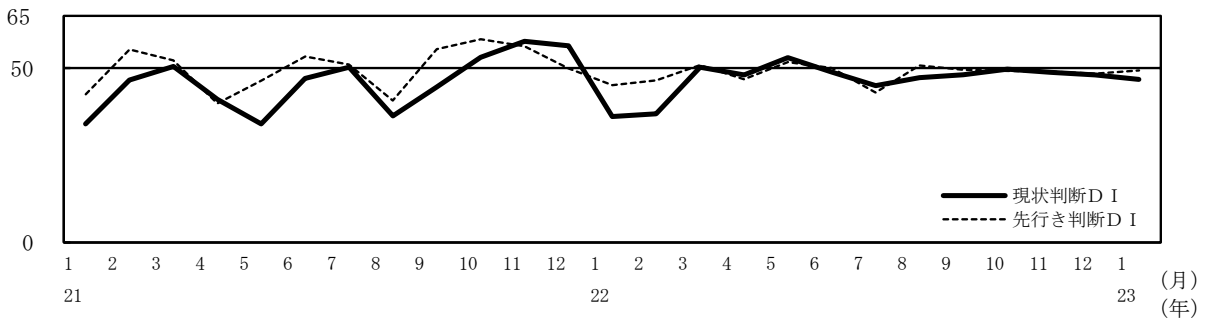
(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年1月調査）景気判断理由の概要

9. 中国

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連	□	・婦人服は冬物セール、春物が共に好調、家庭用品は売り尽くしで売上が増加するなど、月の中旬までは好調だったが、下旬の大雪で売上が伸び悩んだため、売上は前年比 95%の見込みである（百貨店）。	
		▲	・物価上昇の影響で、客の財布のひもが固くなっている（衣料品専門店）。	
		○	・3年続いた新型コロナウイルス感染症の影響が弱まりつつあり、街中に活気が感じられる。また、観光客も増加しつつある（タクシー運転手）。	
	企業 動向 関連	□	・相変わらず、取引先からの建築工事や修繕工事の見積りの依頼はあるが、契約まで至らない案件の割合は変わらない（建設業）。	
		▲	・物価上昇や原材料値上げに対して、事情変更の原則が適用されないと思われる。取引先の先行き手配の受注物件について、販売価格が見合わない物件も出てきているため、利益圧迫やキャンセルによる機会損失が発生している（電気機械器具製造業）。	
		○	・スポット業務の受注量が増加傾向にある（会計事務所）。	
	雇用 関連	□	・新規求人数が、ここ1年、前年同月を上回っている一方で、求職者数は、前月に引き続き、減少している。企業は雇いたい年齢層に合わせて募集媒体を変える等工夫しているが、人手不足は継続している（職業安定所）。	
		▲	・物価や光熱費の急激な上昇等に対応することが困難で、賃上げも意識せざるを得ない状況で、企業に求人数を抑える動きが出ている（新聞社 [求人広告]）。	
	その他の特徴 コメント			□：全国旅行支援の割引額が少なくなったせいか、宿泊の予約が余り入っていない。前年はすぐに予算がなくなったが、今回はまだまだ余っている（観光型ホテル）。 ▲：予約状況は良かったが、雨や雪の影響で、来客数が減少している（ゴルフ場）。
	先行き	家計 動向 関連	□	・電気料金など物価の上昇がしばらく続き、現在よりも景気にマイナスな要素が増加する（設計事務所）。
○			・新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行すると、人出が増え、景気はやや良くなる（商店街）。	
企業 動向 関連		□	・スポットでの受注はあるが、特別に消費マインドが明るくなる要素はないため、景気は変わらない（輸送業）。	
		▲	・4月からの電力料金の値上げが当社の生産コストの増加に大きく影響する。加えて、他社も電力料金の値上がりを価格転嫁すると想定されるため、原材料や部品等の購入品のコスト上昇は不可避となる（金属製品製造業）。	
雇用 関連		▲	・物価高が続き、人件費も上昇傾向にあるため、今後、企業が新規採用を控える動きが強まる（人材派遣会社）。	
その他の特徴 コメント			○：外国人客が少しずつ増加しており、屋外ではマスクをしない客も見掛けるため、景気はゆっくりではあるが、回復に向かう（その他専門店 [土産物]）。 □：生活物資の価格、電気やガスの料金の上昇の影響が少しずつ出てくる（美容室）。	

(D I) 現状・先行き判断D I（中国）の推移（季節調整値）



21

22

23

(月)  
(年)